

# 【警察署統合の成果】

## 警察署統合の背景

- **現状**  
 署員数が50人以下の小規模警察署では、特に刑事課や交通課などの本署勤務員が不足
- **問題点**
  - ① 夜間・休日の体制が脆弱
  - ② 広域化、スピード化、多様化する事案に的確に対応することができないおそれ
  - ③ 本署勤務員の不足を補うため、交番・駐在所に警察官が不在

## 警察署の統合

- **統合の目的**  
 組織体制の強化による管内治安の維持向上
  - **平成26年4月統合**
    - ・ 旧吉野川署 45人 → 阿波吉野川署 87人
    - ・ 旧阿波署 38人
    - ・ 旧美馬署 37人 → 美馬署 71人
    - ・ 旧つるぎ署 32人
- ※ 配置人数は、平成26年1月1日と平成27年1月1日の比較

## 統合署の体制

- **現場活動する警察官の増強**  
 課長以上の管理部門の警察官を可能な限り削減し、現場活動を行う警察官に振り分け
  - ・ 阿波吉野川署 管理部門 8人 (-4人)  
 係長以下 73人 (+2人)  
 機動捜査隊 6人 (+6人)  
 合計 87人 (+4人)
  - ・ 美馬署 管理部門 8人 (-4人)  
 係長以下 57人 (±0人)  
 広域自動車署ら隊 6人 (+6人)  
 合計 71人 (+2人)
- **分庁舎を活用した警戒体制等の維持**
  - ・ 阿波吉野川署 → 本署：旧吉野川署  
 分庁舎：旧阿波署
  - ・ 美馬署 → 本署：旧美馬署  
 分庁舎：旧つるぎ署

## 統合の効果

- **パトロールと初動対応力の強化**  
 警ら用パトカーの2台運用、広域自動車署ら隊、機動捜査隊との連携運用により、パトロールと初動対応力が強化!
- **重大な事件・事故に対する捜査力の強化**  
 刑事課や交通課などの本署勤務員が増え、警察官の集中的投入が可能!  
 刑事生活安全課が生活安全課と刑事課に分かれ、生活安全警察の専門性が高まる!
- **夜間・休日の勤務体制の強化**  
 夜間・休日は5~6人で勤務していたところ、統合後10~11人になり、夜間・休日勤務体制が強化!
- **不在交番・駐在所の解消**  
 本署勤務員の不足は、交番・駐在所員で補うことが多かったが、統合により本署勤務員が増え、交番・駐在所員の活動時間が確保!

## 統合の成果

- **犯罪統計等の比較**  
 統合署における刑法犯認知件数、交通事故発生件数が大きく減少!  
 統合署では刑法犯検挙率等も向上!
- **刑法犯認知件数**
  - △ 阿波吉野川署 -28.3%
  - △ 美馬署 -27.2%
  - △ 県内 -16.1%
- **交通事故発生件数**
  - △ 阿波吉野川署 -9.6%
  - △ 美馬署 -28.1%
  - △ 県内 -11.4%
- **刑法犯検挙率**
  - △ 阿波吉野川署 70.0%
  - △ 美馬署 90.1%
  - △ 県内 46.3%
- **特別法犯検挙率**
  - △ 阿波吉野川署 +292.9%
  - △ 美馬署 +207.4%
  - △ 県内 +18.9%

## 運用面の状況

- **地域警察官の**  
 パトロール時間が増加!  
 リスボンスタイムの短縮効果!
- **パトロール時間**
  - △ 阿波吉野川署 +2,448時間
  - △ 美馬署 +1,488時間
- **リスボンスタイム**
  - △ 阿波吉野川署 -20秒
  - △ 美馬署 +8秒

## 関係団体との連携状況

- **関係団体との連携が**  
 交番・駐在所員の活動時間が確保されたほか、生活安全課員及び交通課員が増えたことで、関係団体との連携が強化!
- **財政削減の効果**  
 西部4警察署の庁舎を同規模のまま、新たに整備した場合、用地取得などの費用を除き、1署当たり20億円、計80億円程度が必要  
 将来的には相当な経費削減!

## 住民アンケートの結果

- **良くなったと感じること**
  - ・ パトカーや警察官をよく見かけるようになった(半数以上)
  - ・ 特にならない(約3割)
  - △ 不安や不便に感じること
    - ・ 現場到着が遅くなったのではないかと等(約2割)
    - ・ 不安や不便を感じることはない(半数以上)
  - △ 総合について
    - ・ してよかった(約3割)
    - ・ しない方がよかった(約1割)

※ 「犯罪統計等の比較」及び「運用面の状況」については、平成26年度(4月から翌年3月までの間)の数値を前年度と比較